

各種税の割合

種別	明治30年	同 35年	同 40年	同 1年	同 5年	同 10年	同 15年	同 20年	同 25年	同 30年
地租	54.7	42.3	30.6	28.4	22.9	22.1	15.0	13.0	12.9	12.9
所得税	1.8	2.1	4.2	7.2	9.3	12.2	21.1	20.8	21.4	17.6
酒税	35.5	46.0	50.0	57.5	55.9	53.8	52.7	57.8	57.9	61.4
流通税	35.4	7.6	9.1	8.8	8.9	11.2	11.2	9.1	8.0	8.9
其他	4.4	1.5	0.1	—	—	—	—	—	—	—
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

とその七〇%までは間接税の形において我々労働大衆が負擔してゐるのであつて、我が國財政の無産階級に負ふ處大なりと言わなければならない。

結 び

以上列記した處において、資本主義日本の恐慌の延命としてインフレーション政策、海外市場への發展のための日滿經濟、ロツク、そして總て國際戰爭へ發展するであらうための準備としての非常時日本の財政を究明し、それが我々無産階級に如何に影響したかを略述した。實際何度も繰り返す事だが日本の無産階級にとつて今日

「ファツショ紛争闘争！」

「×××××反對！」

「×××××は×××××で資本家が出せ！」

「出征兵士の家族の生活を保護しろ！」

「戦死傷者家族の生活を保護しろ！」

「インフレ對策資金を三割即時値上しろ！」

「×××××加重の豫算に反對だ！」

「×××××絶對反對だ！」

等々のスローガンのもとに過去一ケ年の闘争を敢行し、就中インフレーション對策としての資金三割値上要求は大阪聯合會の組織する資金三割値上闘争同盟と協力して爭議部報告にあるが如き戦跡をおさめてゐる。

只惜むらくは組織部の活動において充分な戦跡を得なかつた事と、爭議闘争が上半期に於て屢々防禦の方策をとらざるを得なかつた爲めに非常に消極的であつた事である。四十一支部、五支部準備會、七千二百十四名の組織陣容は全大阪五萬の未組織金屬労働者の比ではない、全國三百六十餘萬の全労働者と共に、前記掲げた當面のスローガンを強力に闘ひぬく事こそ、一九三三年の非常時日本における我等に與へられた任務であらう。

親愛なる同志諸君、資本主義日本は假想×××ではない、

程重要な時はない、國を乗けての××對策と反動の跳梁に對して、眞實に階級を守つて進むものは眞に全國労働組合同盟を死守する。五、同志諸君だけではないか。

一、デフレーションを以て資金を先づ下げる、物價はその後から自然と引き下げる。

一、インフレを以て物價は即時に引上げる、資金の事は労働者以外、我が全勞以外唯一人として言つたものはない。

一、資本主義が立ち行かないからと言つて、××を始め、×××××の矢表に立つのは日頃資本主義に切りこいたまれた労働者農民だ。

一、××が始まる。國家財政がやりきれないなら勝手に兎大に××を押し×××××の責任は労働者農民に背負わしてゐる、たまに資本家からでも借り様ものなら直ちに利子と言ふ奴がついてまわる。

一、下手に××でもし様ものならその家族は、ヒボシになつて言ふのが非常時日本、反動日本に立つ労働者農民の眞實の姿だ。

我等の戦跡

我々は此の情勢を正しく理解した。資本主義延命の一切の運動に××し××し全力的に闘つたのである。

我等を圍繞する一切の××こそ實に我等の、×××××資本主義日本である事を考へ、一九三一年度において諸君と共に討議した處の、有効適切なる手段を以つて闘争の具體的實踐として邁進するであらう事を申しあげて一般情勢報告をおわるのである。

更に追加報告すべき事は消費組合運動に對する方針の決定、具體的發長である。即ち同盟本部の決定、隨つて大阪金屬労働組合を守る加盟各支部はそれ／＼工場において、職場において、購買部を設置し自主的にその基礎を確立し、總て組合本部を中心とする消費組合の設立を約束されつゝある事である。